令和7年度研究推進計画

廿日市市立地御前小学校

1 学校教育目標

主体的に学び 他と協働しながら解決していく児童の育成

～「ふり返る」「気付く」「活かす」～

2 育成したい資質能力

主体性・積極性

課題の解決に向かう力

自己調整力

思考力・判断力・表現力 よさに気付く力

※ は、特に重視する資質・能力

3 研究主題

主体的に学び続ける児童の育成

～自由進度学習の取組を中心として～

4 研究主題設定の理由

昨年度、本校では「主体的に学び、他と協働しながら解決していく児童の育成」の学校教育目標のもと、目指す子ども像を「自分で考え行動し、仲間とともに高まる子」と設定し、算数科を中心に自由進度学習に取り組んだことで、児童は自分で学びを進められるようになってきた。

児童のアンケート結果（2学期末）では、「自分で考えて学習を進めたり振り返ったりしている」と肯定的評価をした児童は95%、「振り返りを書くことで学びのつながりを感じる」と肯定的評価をした児童は92%であり、自分で振り返りながら主体的に学びを進めていると実感している児童が多いことが分かる。「学習の手引き」の中にいろいろな選択肢を用意（複数教科同時進行も含めて）したり、学習コーナーを設置したりすることで児童が自己選択、自己決定する場面が増え、自分の学びや進捗状況を振り返ることで、主体的に自己調整しながら学ぶことができたと考えている。また、算数科における全ての単元末テスト「知識及び技能」の正答率が85%以上の児童の割合は全校で77%であったが、自由進度学習を行った算数科の単元末テスト「知識及び技能」だけを取り上げてみると、正答率85%以上の児童の割合は85%と、自分で学びを進めていく学習スタイルでも学習の内容を着実に身に付いている児童が多数いることが分かる。一方で、まだ学び方や学習内容が身に付いていない児童がいるという実態がある。自由進度学習においても、児童の実態を細かく把握し、状況に応じた的確な指導・支援が必要である。児童が自立して学びながらも学習内容をしっかり身に付け、自己理解、自己調整しながら学べるような授業改善を今後も追及していきたい。

そこで今年度は、まず、学び方や学習内容の定着のため、まず「目指す学びの姿」を全教職員のみならず児童とも共有する。目指す姿をはっきりさせることで、児童は学び方が分かり、教師は見

取り方、指導の仕方が分かると考える。

次に自由進度学習の取組を次の4点に留意しながらこれまでの単元を改善したり、新たに単元開発をしたりする。

- ①複数教科同時進行を含め選択肢を設けた学習の手引きを作成すること
- ②一人でも学びが進められるような学習プリントや学習コーナーを精選すること
- ③思考力や表現力を高める内容を取り入れること
- ④振り返りを充実させること

さらに今年度は自由進度学習と一斉授業を往還させ、幅広い授業の中で目標となる学びの姿を目指し、主体的に学び続ける児童の育成を図っていききたい。

また、こうした学びを推進するに当たっては、学級の支持的風土を基盤とした学級経営、タブレットを駆使したICTの活用が不可欠である。全ての教職員が教育理念・目指す姿を共有して教材研究を行い、多様な個性をもつ児童がお互いの学び方を尊重し、様々な学び方の中からの確に自己選択・自己決定できるような学習の場を設定していく。

5 研究仮説

「目指す学びの姿」を共有し、自由進度学習の取組を充実させることで、主体的に学び続ける児童の育成を図ることができるだろう。

6 研究の内容と具体的な取組

(1) 「目指す学びの姿」を共有する。

目指す学びの姿を低・中・高学年で明文化し、全職員、児童と共通理解する。

- ・課題を把握して見通しをもつ。
- ・自己選択，自己決定をして学習を進める。
- ・試行錯誤しながら粘り強く学習に取り組み，学習目標を達成する。
- ・学習内容をまとめて発信する。
- ・振り返って自己調整する。

(2) 自由進度学習の取組を充実させる。

一人一人の学習進度や能力等に応じた多様な学びの機会を効率的に提供することで、基礎的な知識・技能の定着，思考力の向上を図る。

① 学習の手引きの工夫

- ・単元の目標やゴールを明記する。

(目標や学び方について、初めにガイダンスを行い児童と共有するとともに常に意識させる。)

- ・児童が自分に合った進め方で学習できるよう「必ずやり終える学習」と「自分で決めて自由にする学習」の設定や順序性，学習コース，まとめ方など，多様な選択肢を用意する。
- ・複数教科同時進行を推奨する。(研究授業は複数教科とする。)
- ・一人一人の児童の理解状況を把握するため，チェックテストの場を設定し，テストの内容と方法を吟味する。

② 学習環境の工夫と学習プリントの充実

〈学習環境〉

- ・学習コーナーを設置する。
(体験を通して知識の習得を促したり、学んだ知識を活用したりする場を用意する。)
- ・重要な用語や既習事項を掲示して活用させる。
- ・廊下、特別教室などを活用して、学びの場を工夫する。

〈学習プリント〉

- ・スモールステップを意識し、一人でも学び進められるようにする。
- ・マークやイラストを活用し、文字数を精選する。
- ・ヒントカードやヒント動画を活用する。

③ 思考力や表現力を意識した内容

- ・学習コーナーで児童の知的好奇心を揺さぶりつつ、思考力を高める内容も取り入れる。それらのことを口頭チェックや児童同士の相互交流の場で説明できるようにする。
- ・学習したことをまとめる活動を様々な方法から選択できるようにし、アウトプットさせる。
- ・口頭チェックテストでは、各教科で定着すべきキーワードを用いて説明させる。

④ 振り返りの充実

- ・振り返りによる学びを整理させ、自己理解を深めさせる。
- ・計画表に基づいて自己を振り返り、次の学習の調整を行わせる。
- ・自己評価や他者評価で自己有用感を高めさせるとともに児童実態把握に役立てる。

(3) その他

- ・ロイロノート、Google Classroom の効果的な活用
- ・教え合い・学び合いの推進
- ・児童の学習の成果物の蓄積
- ・自由進度学習と一斉授業との往還

7 検証計画（検証方法及び数値目標）

(1) 基礎的な知識・技能が定着したか。

- ・算数科の単元末テストにおいて、「知識及び技能」の正答率が80%以上の児童の割合が85%以上
- ・自由進度学習の単元末テストにおいて「知識及び技能」の正答率が80%以上の児童の割合が85%以上。

(2) 主体性は高まったか。

- ・児童アンケートにおいて「自分で考え、進んで学習を進めることができた。」「最後まであきらめずに学習した。」と肯定的な回答の割合を90%以上

(3) 自己調整力が向上したか。

- ・児童アンケートにおいて、「自分の学びを振り返り、計画を見直しながら学習を進めることができた。」と肯定的な回答の割合を90%以上

8 研究の方法

(1) 研究主題に関わる研究については全体研修を計画し、児童が主体的に学び、自己調整できる授業改善を行う。

- ・研究の方向性による意識統一
- ・研究授業および研究協議（学年で教材研究に取り組み、単元開発を行う。）
- ・学期の終わりには、単元における学習環境や指導・支援が有効であったかを分析して提案する。
- ・研究授業以外の授業の交流
- ・先進校視察及びその共有

(2) 児童の実態把握のために、意識調査を行う。

- ・主体性についてのアンケート（児童対象 7月，12月）

9 研究計画（詳細は別紙）

- ・ブロック研は行わず、全体研のみ行う。

1 学期・・・2年

2 学期・・・6年

3年，5年

3 学期・・・1年，4年

- ・授業研では、全職員が授業準備に関わる。2学年同時に授業研究を行う場合は、低学年と高学年に分かれて関わる。
- ・一つの研究授業につき、①授業の構想(当該学年のみ)，②授業検討 の校内研修を行う。
- ・全体研修は、低学年を4校時，高学年を5校時に実施し，全職員が参観する。
(4校時，研究授業クラス以外は自習体制をとり，学年で交代して参観する。
5校時，研究授業クラス以外は，4校時で下校させ，全員が参観する。)
- ・単元終了後に各学年で分析をし，全体研修で結果や考察を交流する。

学校教育目標

主体的に学び 他と協働しながら解決していく児童の育成

育成したい資質・能力

主体性・積極性, 課題の解決に向かう力, 自己調整力

思考力・判断力・表現力, よさに気付く力

主体的に学び続ける児童の育成

～自由進度学習の取組を中心として～

目指す子ども像の共有

学習の手引きの充実
(自己選択・
自己決定)

振り返りの充実

自立した学び

学習環境
(学習プリント,
学習コーナー)

思考力, 表現力を
高める場の設定

ICTの効果的な活用

教え合い・学び合い

一斉授業との往還

学級の支持的風土

自己有用感を育む場づくり

異学年交流